

	<p>串木野中学校教頭通信</p> <p>Kyo to correspondence</p> <p>～当たり前のことを当たり前～</p>	<p>第33号</p> <p>令和5年11月30日(木)</p> <p>いちき串木野市立串木野中学校教頭 文責 長岡</p>
---	---	--

相手を不快にしてしまう「4つのDワード」

知らず知らずに不快に？

言葉というものは、自分でも気づかないうちに、相手を不快にしてしまうものです。そうは言っても、言葉を選びすぎると、今後は逆に本心が伝えられなくなってしまうのでもどかしいですね。

今回は、「相手を不快にしてしまう4つのD」について紹介したいと思います。まずは、この4つのワードを使わないように心がけてみてください。それだけでも、会話の中に不快感はなくなります。

相手はどのように感じるのか

不快を与える言葉として「4Dワード」というものは広く知られています。

それが、「でも」「だって」「どうせ」「だから」の4つです。

いずれも、言い訳やネガティブな言葉が後に続くため、頻繁に使うと聞き手の気持ちが下がってしまいます。それに、自分は言いたいことを説明をしている気持ちでも、聞く側からすると否定された表現にも聞こえます。

あらためて注意したい言葉です。

相手の質問に答えるときに、最初に「だから」を言い始めてしまう人がいます。これでは相手は否定された気持ちになってしまいます。

質問「来期の予算って、まだ立っていなかったですね？」

回答「**だから**、来月の定例会議で決定する予定ですよ」

いかにも、「知っていて当然」というニュアンスに聞こえます。「だから」を丁寧に言い変えても、同じような印象を与えます。

質問「催行人数に達さない場合は、中止になることもあるんですね？」

回答「**ですから**、その場合は、私どもからのご連絡をお待ちください」

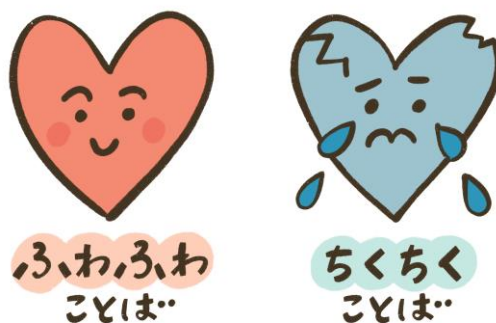
こちらも、あたかも、「さっきもいいましたよね」という面倒くささがあらわれています。

「だから(ですから)」は、順接の接続詞です。前の事柄が原因・理由となり、その結果があとに続くときに使うものです。

前の事柄が相手と共有されていないのに「だから」から切り出すことに、そもそも無理があります。

4Dワードは、知らず知らずのうちに使っていることが多いと思います。うっかり口をついていることに気がいたら、そのときがやめるタイミングです。

気をつけるようにしていきたいですね。



「ことば」は「こころ」

東山龍寛師

ことばは こころ

明るく 正しく 仲良く

みんな みんな ことばから

ことばは こころのあらわれです

明るいことばがでるときは

こころに 光をうけたとき

正しいことばがでるときは

こころに 思いやりがいつぱいのとき

なかなか そうはならないけれど

つとめても そうはならないけれど

「どうしたの？」

「大丈夫？」と

ちよっとことばをかけたとき

こころは やさしくなっぺいきます

こころは ことばでかわります

「ことば」は「こころ」

「こころ」は「ことば」